

# 1935年「日本切腹・中国介錯」論、1937年日中戦争、1941年日米戦争、1945年日ソ戦争

加藤陽子



胡適（こてき）は、1935年「日本切腹、中国介錯論」を論じた。加藤陽子東大教授によって広く紹介された、中国外交戦略論。胡適：北京大学長、駐米大使（1938年-1942年）。北京大学教授であった胡適は、1935年当時次のように考えていた。

中国は、アメリカとソ連、この2国の力を借りなければ救われない。日本の勢いを抑止できるのは、アメリカの海軍力とソ連の陸軍力しかない。日本側はよく自覚しているので、この2国

のそれぞれの軍備が完成しないうちに、中国に戦争をしかけてくるだろう。

したがって我々は、3、4年の間は他国参戦なしの単独の苦戦を覚悟しなければならない。切腹の実行には介錯人が必要である。今日、日本は全民族切腹の道を歩いている。上記の戦略は「日本切腹、中国介錯」というこの八文字にまとめられよう。

日中戦争は1937年7月に始まった。4年後、太平洋戦争（日英米戦争）は1941年12月に始まり、日ソ戦争は太平洋戦争の最終盤、1945年8月に始まった。

胡適(1891 - 1962)



## 南京大虐殺



1937年12月、南京市内に折り重なる遺体を見下ろす日本兵（村瀬守保撮影）

## 首都重慶への無差別爆撃



1941年6月5日の爆撃の際、防空壕で起こった事故により圧死・窒息死した犠牲者らの、外に運び出された遺体とされる写真（撮影：カール・マイダンス）LIFE誌（1941年7月28日号）